

## $\chi^2$ 分布

定義  $X_1, \dots, X_\phi$  が独立で  $N(0, 1)$  に従うとき

$$\chi^2 = X_1^2 + X_2^2 + \dots + X_\phi^2 \quad (\phi \text{ は自然数})$$

が従う分布を **自由度  $\phi$  の  $\chi^2$  分布 (カイ<sup>2</sup>乗分布)** という。

定理  $\chi^2$  分布の密度関数は

$$P_\phi(x) = \underbrace{\frac{1}{\Gamma(\frac{\phi}{2})} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{\phi}{2}}}_{= C_\phi} \cdot x^{\frac{\phi}{2}-1} e^{-\frac{x}{2}}$$

で与えられる。

ただし、 $\Gamma$  は ガンマ関数。

$$\Gamma(z) = \int_0^\infty t^{z-1} e^{-t} dt,$$

$$\Gamma(\frac{1}{2}) = \sqrt{\pi}, \quad \Gamma(z+1) = z \cdot \Gamma(z), \quad \Gamma(n+\frac{1}{2}) = \frac{(2n-1)!!}{2^n} \sqrt{\pi} \text{ である。}$$

④ 証明は省略するが、

$\phi = 1$  のときは単純な変数変換

$\phi \geq 2$  のときは帰納法とたたみ込みで示せる

定理 2.6.1. 自由度  $\phi$  の  $\chi^2$  分布について

$$E(\chi^2) = \phi, \quad V(\chi^2) = 2\phi \quad \text{が成立する}$$

$$\textcircled{4} \quad E(\chi^2) = E(X_1^2 + \dots + X_\phi^2) = E(X_1^2) + \dots + E(X_\phi^2) = V(X_1) + \dots + V(X_\phi) = \phi.$$

$$\begin{aligned} V(\chi^2) &= V(X_1^2 + \dots + X_\phi^2) = \phi \cdot V(X_1^2) = \phi(E(X_1^4) - E(X_1^2)^2) \\ &= \phi \left( \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_0^\infty x^4 e^{-\frac{x^2}{2}} dx - 1 \right) = \frac{\phi}{\sqrt{2\pi}} \left[ -x^3 e^{-\frac{x^2}{2}} \right]_0^\infty + \frac{3\phi}{\sqrt{2\pi}} \int_0^\infty x^2 e^{-\frac{x^2}{2}} dx - \phi \\ &= \frac{3\phi}{\sqrt{2\pi}} \left[ -x e^{-\frac{x^2}{2}} \right]_0^\infty + \frac{3\phi}{\sqrt{2\pi}} \int_0^\infty e^{-\frac{x^2}{2}} dx - \phi = 2\phi \end{aligned}$$

定理 2.6.2.  $\chi_1^2, \chi_2^2$  は独立で、それぞれ自由度  $\phi_1, \phi_2$  とすると

$\chi^2 = \chi_1^2 + \chi_2^2$  は自由度  $\phi_1 + \phi_2$  の  $\chi^2$  分布に従う。

① 定義から。

$$\chi_1^2 = X_1^2 + \dots + X_{\phi_1}^2, \quad \chi_2^2 = X_{\phi_1+1}^2 + \dots + X_{\phi_1+\phi_2}^2 \text{ などので}.$$

$$\chi^2 = X_1^2 + \dots + X_{\phi_1+\phi_2}^2 \text{ となる。//}$$

$\chi^2$  分布も積分計算は困難なため、確率を求めるのに

$\chi^2$  分布表を使う。…  $P(\chi^2 \geq \chi_\alpha^2(\phi)) = \alpha$  の関係式。

例 1) (1) 表より  $\phi=10, \alpha=0.1$  をみて。 $a=15.99$

(2) 表より  $\phi=10$ , 表の値 20.5 をさかして。 $\alpha=0.025$

不等号の向きから。 $a=1-0.025=0.975$

(3)  $\phi=10, \alpha=1-0.05=0.95$  をみて。 $a=3.94$

問 2) (4)  $a=23.2$  (5)  $a=2.56$

(6) 0.995

3) (1)  $a=22.3$  (2) 0.95 (3) 0.01

(4)  $a=8.55$

(5) 表から近い値を探し。 $P(\chi^2 < 30.5) \doteq P(\chi^2 < 30.6) = 0.99$  となる

4)  $\alpha=0.975$ , 表の値が 11.7 (の近似値) のところを探すと

$\phi=23$  となる。

## ポアソン分布と指數分布

例 直線上に任意に点があり、その個数は長さ 1 あたり入個であるとする。

この直線上の長さ 1 の区間を任意にとると、そこに含まれる点の個数を  $X$  とする。

まず、長さ  $L = \frac{n}{\lambda}$  : 有限とし、そこに  $n$  個の点をばらまく。

1 個の点が長さ 1 の区間にに入る確率は  $\frac{1}{L}$  なので、 $p = \frac{1}{L}$  とおけば

$X$  は  $B(n, p)$  に従う。ここで

$$P(X=x) = {}_n C_x \cdot p^x \cdot (1-p)^{n-x} \quad (x=0, 1, \dots, n) \text{ である。}$$

ここで  $L \rightarrow \infty$  ( $n \rightarrow \infty$ ) を考えると。

$$\begin{aligned} {}_n C_x \cdot p^x (1-p)^{n-x} &= \frac{n(n-1) \cdots (n-x+1)}{x!} \left(\frac{\lambda}{n}\right)^x \left(1 - \frac{\lambda}{n}\right)^{n-x} \\ &= \frac{\lambda^x}{x!} \cdot \frac{n}{n} \cdot \frac{n-1}{n} \cdot \frac{n-2}{n} \cdots \frac{n-x+1}{n} \cdot \left(1 - \frac{\lambda}{n}\right)^n \cdot \left(1 - \frac{1}{n}\right)^n \rightarrow e^{-\lambda} \end{aligned}$$

$$\rightarrow \frac{\lambda^x}{x!} \cdot e^{-\lambda}. \quad \text{となる。}$$

定義 ポアソン分布。 $\lambda > 0$  とするとき。

$$P(X=x) = e^{-\lambda} \frac{\lambda^x}{x!} \quad (x=0, 1, \dots)$$

をみたす分布  $X$  を パラメータ  $\lambda$  のポワソン分布 という。

定理 1.10.1. ポワソン分布は次をみたす。

$$E(X) = \lambda, V(X) = \lambda.$$

例 . さきほどの例の設定で、今度は隣り合う2点の距離を  $X$  とする

長さに  $n$  個の点があり、ある 1 点から長さ  $x$  の間に点が入らない確率は  $(1 - \frac{x}{L})^{n-1}$  である。

∴ A からの距離  $x \sim x + dx$  ではじめて他の点がみつかる確率は。

$$(1 - \frac{x}{L})^{n-1} \cdot (n-1) \cdot \frac{dx}{L} = p(x) dx \text{ である。}$$

↑ ほんとうは  $1 - (1 - \frac{dx}{L})^{n-1}$  だが、 $dx$  が小さいので  $dx^2$  などは無視している。

ここで、 $L \rightarrow \infty$  ( $n \rightarrow \infty$ ) とすれば。 ( $L = \frac{n}{\lambda}$ )

$$(1 - \frac{x}{L})^{n-1} \cdot (n-1) \cdot \frac{dx}{L} = \lambda \cdot \frac{n-1}{n} \cdot (1 - \frac{\lambda x}{n})^{n-1} dx \\ \rightarrow \lambda \cdot e^{-\lambda x} dx \text{ となる。}$$

### 定義 指数分布

連続型確率変数  $X$  が

$$p(x) = \begin{cases} \lambda e^{-\lambda x} & (x \geq 0) \\ 0 & (x < 0) \end{cases} \quad \text{に従うとき。}$$

$X$  を パラメタ入の指數分布 という。

定理 1.10.2 . 指数分布は次をみたす。

$$E(X) = \frac{1}{\lambda}, V(X) = \frac{1}{\lambda^2}.$$

例 田  $X$  を  $\lambda=2.4$  の指數分布に従うとすると、求める確率は

$$\begin{aligned} P(X \geq 0.5) &= 2.4 \int_{0.5}^{\infty} e^{-2.4x} dx \\ &= [ -e^{-2.4x} ]_{0.5}^{\infty} = e^{-1.2} \doteq 0.301 \text{ である} \end{aligned}$$

田  $X$  を  $\lambda=4$  の指數分布に従うとすると、求める確率は

$$\begin{aligned} P(X \geq \frac{1}{2}) &= 4 \cdot \int_{\frac{1}{2}}^{\infty} e^{-4x} dx = [ -e^{-4x} ]_{\frac{1}{2}}^{\infty} \\ &= e^{-2} \text{ である} \end{aligned}$$

田  $n$  回であたらない確率は

$$(1 - \frac{1}{n})^n \text{ である}$$

ここで  $n \rightarrow \infty$  とすると、

$$\lim (1 - \frac{1}{n})^n = e^{-1} \text{ をえる。}$$

一方  $X$  を  $\lambda=1$  の指數分布に従うとすると、

$$P(X \geq 1) = \int_1^{\infty} e^{-x} dx = [ -e^{-x} ]_1^{\infty} = e^{-1}$$

となり一致することがわかる